

Whisky Distillery watching in Scotland 2025



2025年9月に、樽の仕事でスコットランドに出張。併せて、いくつかのウイスキー蒸溜所を見学して写真を撮っていたが、26年春まで忙しくて資料化していなかった。2026年8月になって、記憶を頼りにこの資料にまとめた。ずいぶん年月が経ったので、コメント・キャプションは少ない。

Auchentochan オーヘントツシャン

「オーヘントツシャン」はゲール語で「野原の片隅」。グラスゴーから北西に30分ほどのところ。グラスゴー空港到着が日曜朝だったので、その日、一般ツーリストのツアーに参加した。ポットスチルは3基。スコッチでは珍しく、アイリッシュのような3回蒸溜。ウオッシュバックは木製。見学した時は蒸溜停止中、とのことだった。現在、サントリーの傘下。



Whisky Distillery watching in Scotland 2025



Glen Allachie グレンアラヒー

グレンアラヒーはゲール語で「岩の谷」。スペイサイドのベン・リネス山の麓に位置している。かつてはシーバスが所有していたが、現在は独立系。蒸溜器のコンデンサーが水平なのは珍しい、味は結構違うだろう。「ウッド・コレクション」という名称で樽のバリエーションに力を入れていて、日本のミズナラ樽も使用。ケンタッキーで何度か聞いた「ウイスキーは樽が7割」と、ここでも聞いた。



Whisky Distillery watching in Scotland 2025



Strathisla ストラスアイラ

ストラスアイラはゲール語で「アイラ川の広い渓谷」。スペイサイドのKeithという町にある。1786年設立で、スコッチ最古の一つ。二つのパゴダが印象的。現在はシーバス傘下で、シーバスの中心的蒸溜所の一つになっている。

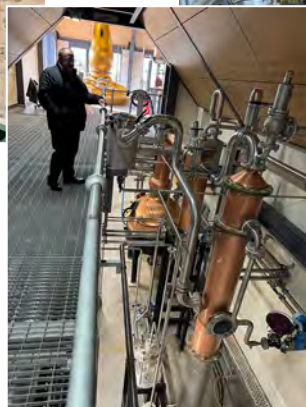
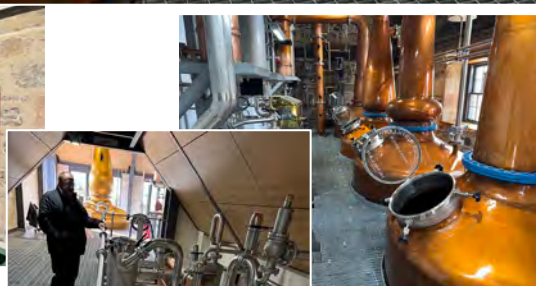
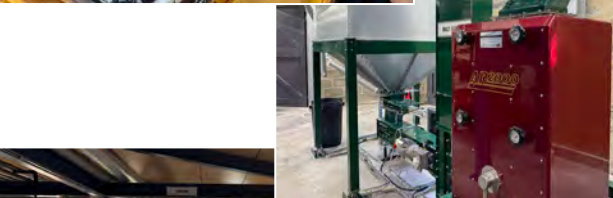
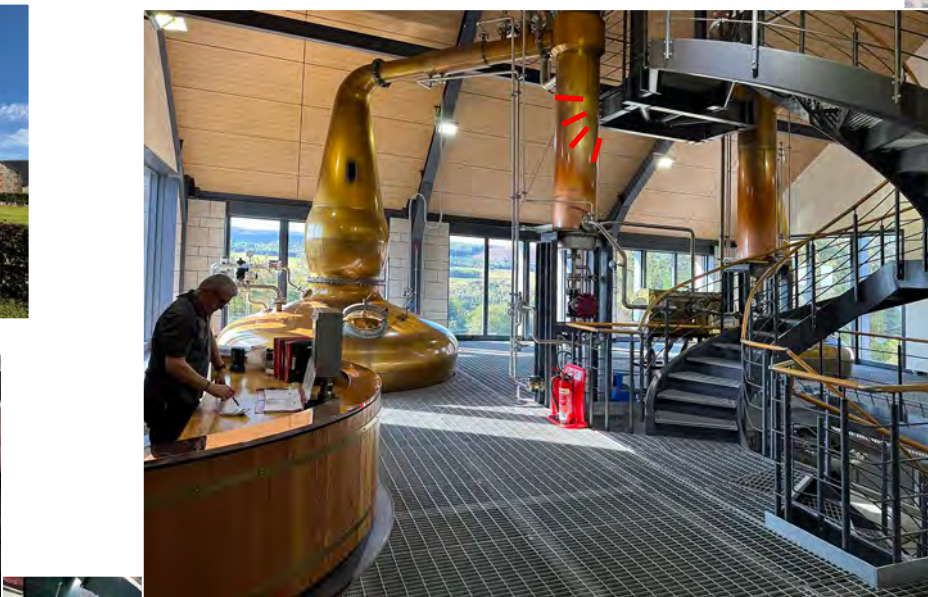


Whisky Distillery watching in Scotland 2025



Andross (Greenwood Spirits) アンドロス

アンドロスは新しい蒸溜所。数年前から蒸溜・樽貯蔵をおこなっているが、まだウイスキーの商品は出していない。メインの大型ポットスチル（螺旋階段で上部に登れる！）のほか、試作用の小型ポットスチルも数基あって、売上がない中で、膨大な設備投資を行っていることがわかる。毎年一定数の日本のミズナラ樽による貯蔵を行っている。右下写真のサンプルボトルのラベルには「Mizunara」とある。



Scotch MIZUNARA aged



シーバスとデュワーズ（パカルディ傘下）は「ミズナラ」と表示した製品を発売している。（写真はKIXの免税店で2026年7月撮影）主に日本市場向け（中国人観光客向けを含む）だが、アメリカなどでも販売しているようだ。ラベルにミズナラとは表示していないが、ミズナラ樽貯蔵をブレンドしているスコッチウイスキーはほかにもいくつかある。グラッパやテキーラでも、ミズナラ樽で貯蔵するブランドがいくつかある。



「ミズナラ」ではないが、日本語表記のあるスコッチウイスキー。ジョニーウォーカーの「うま味」と、シーバスの（ちょっと読みにくい）「匠リザーブ」。「うま味」の方は、ロンドンで撮影。



tidbit Scotland

スコットランドでの移動途中に「ブレア城」の看板があったので立ち寄った。知らなかったが、昭和天皇が皇太子時代の1921年に3泊されたそう。滞在に備えて部屋はバスルーム付きに改装され、菊のご紋のついたドアノブが取り付けられた、その部屋がそのまま残されていて見学コースに入っている。その後、上皇ご夫妻（当時皇太子ご夫妻）も1976年に滞在されたそう。スコットランドは日本皇室と縁が深い。写真は日本語の解説ボード。

日本政府自体が歴史的にスコットランドと縁が深い。明治政府は、優秀な学生をスコットランドのグラスゴー大学に留学させることが多かった。高峰譲吉（後に、アメリカから招聘されて、シカゴで麹糖化によるウイスキーづくりに取り組んだ）も1880年から官費留学生としてグラスゴー大学で学んだ。ご存じの通り、竹鶴政孝（ニッカウイスキー創業者）も1918年から私費でグラスゴー大学で学んだ。



今回スコットランドで宿泊したホテル、「ハイランダーイン」（クレイゲラヒ）と「ドーナックキャッスルホテル」（ドーナック）のバーにて。もちろんスコッチウイスキーは様々豊富にあるが、ジャパニーズの取り揃えの多さに驚いた。

ハイランダーインはオーナーが日本人なのでわかるが、北の果て、ドーナック（下の2枚の写真）でも様々な日本ブランドがあって驚いた。

（以前、アイラ島のホテルに泊まったことがあるが、アイラとスコッチばかりで、さすがにジャパニーズはなかった。）



Small Distillery

Distillery watching in Scotland 2025



ホテル裏の小さな蒸溜所

スコットランドの北のドーノックという街で、Dornoch Castle Hotelという宿に泊まったのだが、その裏に小さな蒸溜所があった。ホテルのオーナーが運営する「ドーノック・ディスティラリー・カンパニー」。2016年創業。超小型ポットスチルはポルトガルのHoga Still。ウイスキー製造が目的だが、今は主にジンの商品化。このような蒸溜所はスコッチウイスキー蒸溜所にはカウントされていないだろう。



Small Distillery

Distillery watching in Paris

2025



Distillerie de Paris パリの街中蒸溜所

スコットランドでないが、同じ小規模蒸溜所の範疇としてパリの街中蒸溜所を紹介。2015年にパリ街中での蒸溜所が許可されて、設立されたクラフト蒸溜所。地下鉄の「Chateau d'Eau」駅から徒歩1分。SNCF（フランス国鉄）の北駅や東駅からも10分以下。商店や事務所が並ぶ街中にある。蒸溜所自体は路面建物ではなく中庭部分。ジンが中心だが、ウイスキーも作る。特注の小容量の樽を使用、アンフォラもあった。ボタニカルの種類は豊富。中庭には、いくつかのボタニカル鉢植えが。



(end 260817/2neo)